小池中に各国留学生 生きた国際交流体験

燕RC異文化相互理解セミナー

燕ロータリークラブ（青柳修次会長）は、きのう二十日午後二時から、燕市立小池中学校で、同中学校の生徒を対象に「異文化相互理解セミナー『留学生とお国自慢～お互いの子ども文化を知ろう！～』」を開催した。

市内の中学生に異文化交流の機会を作り、国際感覚豊かな若者に育ってもらおうと毎年行っているもので、六回目となることしは、これまでのように日本全国のロータリークラブ会員からの寄付金を財源とした私費外国人留学生支援を目的とした米山奨学金を活用して留学している留学生を招くだけでなく、同クラブが直接、県内の各大学に声をかけて留学生の参加を募集。中国やベトナム、マレーシアなどの八カ国の学生二十七人が参加。さらに留学生と中学生の橋渡し役として新潟県立大学の学生二十一人も参加した。

はじめに青柳会長があいさつ。「普段から、中学生のみなさんが外国の方と話したりいろんなことを学ぶ機会は少ないと思います。来年にはオリンピックもあるし、外国について、ニュースで知ったり習うこともあるかと思いますが、こうして、外国のお兄さん、お姉さんと話す機会はあまりないと思います。ぜひ、有意義なひとときを楽しんでいただければと思います」とした。

青柳会長

櫛谷教授

続いて、事業のコーディネーターでもある新潟県立大学の櫛谷圭司教授が講演し、国際交流の意義と重要性を生徒らに説いた。

櫛谷教授は、国際交流の意義について「異文化が接触するということは、国を越えてさまざまな文化が衝突し混乱を招くもの。しかし、それを乗り越えれば国際交流が始まる。逆にまったく交流がない孤島のような文化は確かに幸せな生活が続くかもしれない。しかし、そこに発展はありません」と説明。多くの人が持つスマートフォンを例に挙げ「作るための技術は日本でも他でもあったかもしれませんが、この文化を生んだのはアメリカです。生み出したアメリカのシリコンバレーには世界中からたくさんの人が集まってくる。世界中の違った文化を持った人たちが集まってきて議論し、対立し、その結果、生まれてきたのがスマートフォンです。アマゾンの通信販売もそうだし、マイクロソフトのコンピューターソフトもそう。アメリカから生まれてきました」とし、多様な文化の衝突と交流が新たなものを生み出すのに不可欠であると訴えた。

講演後には、ワークショップが開かれ、各グループに留学生らが加わり、自己紹介やゲームで親睦を深めたあと、留学生の出身地や燕市について、それぞれ紹介し合ったりした。

（細山）

ことしは小品中心、下田の風景数多く

下田の森の美術館、宇賀治徹男水彩画展

三条市馬場、下田の森の美術館（関勝徳館長）は、きのう二十日から十月一日（火）まで、「宇賀治徹男水彩画展」を開催している。

三条市在住の宇賀治さんは、日展をはじめ多くのコンクールで好成績を収め、各地で個展を開くなど、中央で活躍しているほか、地域の絵画グループなどで後進の指導にも力を入れている。

今回の展示は、八十号や百号などの大作をそろえた昨年とはうってかわって、小品を中心に四十点ほどを展示している。炎天下にさらされた熱を帯びたバケツの質感や晩夏の里山の澄んだ空気など、淡い色彩の下に見える緻密なデッサンと上からかぶせる色の組み合わせにより、写真とは異なる独特のリアリティーが感じられる作品が並ぶ。

また、作品の半分以上は下田の風景で、八木鼻だけでも、それぞれ季節や角度で多彩な表情を楽しむことができる。

見物客の一人は、「宇賀治さんの作品は好きですね。どれも透明感があって、懐かしい感じがするんですよね」と話していた。

また、宇賀治さんは、「少し写生に行こうか、となると下田は近いんですよ。守門や粟ヶ岳も何度も書いていますしね。今までずっと描いてきたものに加え、身の回りのものなどを展示させていただきました」と話していた。

開館時間は午前九時三十分から午後四時まで、毎週水・木曜日休館。入館無料。

問い合わせは同館（TEL０２５６・４６・５５７６）へ。

（細山）

蛇の目

最後のドライブ（最終回）

上野公園駐車場の入出庫の時間で見ると、特別展三国志会場に約一時間半はいたことになる。

ミッドタウンの上海家庭料理「南翔小籠」でまず昼食を食べてから、サントリー美術館へ。メンバーズ会員の更新もあるし、十一月十一日から来年五月中旬まで改装のため休館というので、開催中の「美濃の茶陶」展を見ることが目的。

三井美術館所蔵の国宝「志野茶碗・卯花墻（うのはながき）」、五島美術館所蔵の重要文化財「鼠志野茶碗・峰紅葉」、サントリー美術館所蔵の「織部洲浜形手鉢」など、これまで何度か見ている品物もあるが、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部の名器が一か所で見られる機会であり、個人蔵の銘品も多かった。

もっとも、美濃の焼き物となると、中世から現代までで、それぞれの時代の流行もあって、似て非なるものもあるので、「どこかで見たような」と思うものもあるが、記憶に自信が持てない。

よかったのは、昭和を代表する陶工で人間国宝だった故荒川豊蔵の作品がまとまって展示されていたこと、加藤唐九郎の作品も出土する瀬戸・美濃と呼ばれる陶磁器片などに興味もあって、この類の展覧会は、機会あるごとに眺めてきた。

展覧会の後は、サントリー美術館の喫茶コーナー「加賀麩・不室屋」に初めて入り、五％引きの会員割引もあるので抹茶ケーキとアイスコーヒーのセットで九百七十五円を食べて乾いたのどを潤した。

慣れた店内を歩いて、とらやパティスリーＳａｈａｒｕ ＡＯＫＩで、買い物を楽しんだ。

午後三時半を回ったが、地下駐車場を出た時も、少し風が吹いていたが、台風15号の心配は全くなく、午後四時半過ぎ、新座料金所から、悠々と東京を脱出。午後六時、関越トンネルを抜けて、土樽付近を通過。台風15号は伊豆大島付近にあって最大風速六十メートルに発達しているというが、進路から見て、新潟県は全く心配なし。

午後七時半過ぎ、腹も空いたので、栄パーキングに寄って、チャーシュー麺を食べて帰った。

（社主）

国宝「卯花墻」

イカとエビのチリソース定食

不室屋の抹茶ケーキ

事件簿

【三条署】

◆十九日午後十一時十五分、三条市嘉坪川一の配送業、坂井秀樹（四六）を公務執行妨害の現行犯で逮捕した。

坂井は十九日午後十一時九分ころ、三条市本町一地内の路上で警察官の胸ぐらをつかみ、職務を妨害した。

◆二十日午前七時二十八分ころ、三条市笹岡地内（国道２８９号）で、五十代男性が運転する路線バスが乗客を乗せて走行中、十代男性の運転する自転車と衝突した。

十代男性は左腕に擦り傷などのけがを負い、乗客にけが人はなかった。

事故原因は調査中。

購読料一カ月一、〇八〇円